

蒙古族の
分離

厄魯特の
分離

準噶爾族

記録に依れば、『伊犁は烏孫國たる前に、塞の地たりしが、大月氏塞王を破るに及んで此の地に居る。後ち烏孫王、大月氏を撃て之を走らし、又此の地に據る。故に烏孫國に塞の種族あり』と以て烏孫國民たる以前は、月氏國民にして、其の以前は塞國民たりしことを窺知するに足る。蓋し彼等は、烏孫國亡ひて後、蒙古に復歸したるなり。

初め元國の亡ぶるや、蒙古族分離して三大部と爲る。漠南蒙古(内蒙古)、漠北喀爾喀(外蒙古)厄魯特(蒙古)即ち是なり。明代に至りて、厄魯特蒙古は、西北の地を吞噬し、日に漸く強大と爲りたり。

後、厄魯特更に分離して、吐爾扈特(準噶爾)、額魯特(和碩特)、杜爾伯特の四部と爲り、準噶爾は伊犁に、杜爾伯特は額爾齊斯(額爾齊斯)に、吐爾扈特は塔爾巴哈臺(塔爾巴哈臺)に、和碩特は烏魯木齊(烏魯木齊)に、牧し之を總稱して四厄魯特と曰ふ。内、和碩特は青海の地に據りて西藏に侵入し、遂に喀木(喀木)の地を占有するに至れり。

準噶爾族亦勇悍にして戦を好み、千六百年代には、悉く四隣の諸部を併呑し、西はバルカシ湖邊より、天山南北路及青海衛藏(西藏)を押領し、莫大なる準噶爾國を建て